

# 淡路島のたまねぎ農業システム

瀬戸内の水に恵まれない、農地として利用できる土地が少なく島での独創的な農業システム

## 【多様な灌漑設備による水の確保】

ため池などの表層水と湧水などの地下水を高密度に組み合わせ農業生産の基盤を支えている。

## 【たまねぎを核に水稲、畜産と組み合わせによる循環型農業】

稲刈り後の水田で、たまねぎを栽培している。土壌改良のため、牛ふん堆肥を還元している。

## 【多様な組織のネットワークによる農業システムの維持】

農家をはじめ「田主（たず）」や産地商人など多様な組織のネットワークにより、地域全体で100年以上の歴史を経て、農業システムを構築してきた。

### 1 食糧及び生計の保障

- ・高収益であり販売農家の割合が高い
- ・加工業、集荷業など関連産業が地域に発達

### 2 農業生物多様性及び生態系機能

- ・農業の多様性（たまねぎ品種の育成・遺伝資源の継承、多様な農作物を栽培）
- ・湿地生態系（水田）と草地生態系（畑地）が1年の中で転換、多様な生物が生息

### 3 知識システム

- ・たまねぎ栽培の伝統技術（島風を乾燥に使うたまねぎ小屋）
- ・ため池、水路ごとに田主が用水を緻密に管理

### 4 文化・価値観及び社会組織

- ・「ゆい」による相互労働奉仕
- ・たまねぎに関連した祭事 ・たまねぎの伝統的な食文化

### 5 ランドスケープ及びシースケープ

- ・季節により変化する農業景観
- ・ため池・防風松林による防災機能
- ・かいぼり（ため池の栄養塩供給）による豊かな海づくり



淡路島のたまねぎ農業システムのイメージ図

